

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第3回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

① 「公の施設の再配置計画」の策定について

② 地域活動支援事業の採択結果について

(2) 協議事項（公開）

① 地域活動支援事業の課題等の洗い出し

3 開催日時

令和2年7月27日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：猪俣敦子、大滝英夫、小林 進、千代金治、相馬祐一、田中博三（副会長）、
中島 功、藤本孝昭（会長）、古川勝夫、古川 仁（欠席2名）

・行政改革推進課：星野参事、内海主任

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・会議録の確認者：小林委員

次第2 議題「(1) 報告事項」の「①「公の施設の再配置計画」の策定について」に入る。本日は市の行政改革推進課より出席いただいている。行政改革推進課に説明を求める。

【行政改革推進課 星野参事】

- ・資料1に基づき説明

【藤本会長】

- ・今の説明に質疑を求める。

【田中副会長】

今ほど、人口の減少や、財源不足により市の貯金が減少傾向にあると説明があった。だが、それについては十数年前より言われていたように思う。人口減少や少子化の問題である。これについては議会でも話し合われていると思うが、人口推移の傾向として、直線的に下降しているのか、あるいは様々な施策により増加と減少を繰り返しているのか、大まかにその経過を聞かせてほしい。

【行政改革推進課 星野参事】

まず人口については、今後も減少していく見込みであるが、市では人口減少対策や少子高齢化対策等を講じ、人口減少をできるだけ緩和する施策を進めている。人口減少問題は、当市だけではなく全国的な課題でもあり、避けて通れない。一方で財源についても、人口の減少等に伴い不足が生じているが、必要性を見極めながら今後行政を運営していく。「公の施設の再配置計画」は、厳しい財政状況等に対応していくための行政改革の取組の一つである。

【中島委員】

先ほどの説明で、津有区には再配置の対象施設はないという話があった。例えば、安塚区や大島区等の公の施設を廃止する場合、津有区地域協議会としては意見を言う必要もなく、求められないということによいか。

【行政改革推進課 星野参事】

各地域協議会には、当該区に所在する施設についてのご意見を伺うこととしているが、他の地域の施設についてご意見がある場合は伺い、参考にしたいと思っている。従って、津有区以外の施設であるため意見を言えないということはない。また今後計

画を策定する中では、パブリックコメントを通じて、計画に対するご意見をいただく予定にしている。

【中島委員】

確認である。他の地区の施設の統廃合等についても地域協議会に説明されるということか。それとも全市に向けてパブリックコメントを実施するということか。英語では分かりにくいいため日本語で説明願う。地域協議会に、他の区の再配置計画についての意見を求めるということはないという理解でよいか。一般的な上越市民に向けて問いかけはするが、地域協議会にはしないということによいか。

【行政改革推進課 星野参事】

そうである。

【千代委員】

人口減少については当然以前から見えていたと思う。温浴施設や体育施設が設置された経緯には、地域や事業者からの希望があり、その当時は皆ありがたいと思っていた。そして何年か前から事業の見直しが行われている。緊急の問題は温浴施設等についてであるように思うが、当時は、先々の計画性というものが少なかったのではないか。国や県もそうだが、長期的な視野で物事を考えていかなければならない。いろいろな事を計画し協議会等に諮られるが、それはほぼ計画が完成している段階で示される。そのような市の姿勢がある。一応市民の意見を聞いているということが常にある。とにかくいろいろなものを作り過ぎた。これは当時から先が見えている話だったように思う。水族館のシロイルカの件もそうである。ビジョンがなく、ただ作ればよいという部分があるように思う。その結果、このようなかたちで協議会に持ってきているのだと思うが、今ほどの中島委員の質問のように、他の地域の施設の問題は私たちに分からない。

【藤本会長】

今は質問を求めている。端的に質問願う。

【千代委員】

その事を踏まえながら、必要な施設かどうかについてこれから我々の協議会に提示してくるということだと思う。今ほどの中島委員の質問では、他の区のことには分からないが、それは関係ないのかという話だが、そのとおりなのか。あるいはまたこのような話を地域協議会に持ってくるのか。

【行政改革推進課 星野参事】

他の地区の施設に対する意見については、先ほど回答したとおりである。本日は「公の施設の再配置計画」の取組の概要についてご説明した。また、再配置を検討している施設が所在する区には、具体的な対象施設や現在の検討状況についてご説明しているところである。各地域協議会の中でいただいたご意見を踏まえて、今後、計画の素案ができた段階で、再度地域協議会に計画を示す予定は現段階ではない。先ほどパブリックコメントが横文字で分かりにくいというご意見もあったが、広く市民の方に計画に対してご意見をいただく機会を予定している。他の区の施設についてのご意見があれば承り、必要に応じて参考にさせていただきたいと思っている。

【藤本会長】

以上で次第2 議題「(1) 報告事項」の「①「公の施設の再配置計画」の策定について」を終了する。

次に次第2 議題「(1) 報告事項」の「②地域活動支援事業の採択結果について」事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料2に基づき説明
- ・「津-5 津有地区地域づくり事業」の事業の縮小について報告

【藤本会長】

今の説明に質疑を求める。

【古川 仁委員】

事業の採択後、最終的な検査の際には写真等を添付するのか。本当に物を購入したか等の確認はどのようにするのか。

【山崎主事】

地域協議会では事業の採択までを行い、それ以降の補助金の検査等は市が行う。補助金が適正に使われたかどうかや、活動が行われたかどうか等に関しては、実績報告書に活動写真や購入物品等の領収書を添付していただくことで確認している。

【藤本会長】

津有地区地域づくり事業については、コロナ禍に伴って事業が縮小され、その分減額になるとの報告があった。他の事業についても同様なことが考えられるが、これは今の状況を考えると起こり得ることである。

以上で次第2 議題「(1) 報告事項」の「②地域活動支援事業の採択結果について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 協議事項」の「①地域活動支援事業の課題等の洗い出し」に入る。事務局に説明を求める。

【山崎主事】

- ・意見交換について説明

【藤本会長】

前回の協議会では、審査の進め方等についての意見もあったが、本日は今年度の審査等について振り返りを行う。意見交換メモを参考に進める。審査を行った感想等でもよいため、自由に発言願う。

それでは、まず「募集するテーマ」についてである。津有区では、8 つの募集するテーマを設定して事業を募集した。実際に今年度提案のあった団体がどのテーマで提案しているかの整理を事務局に依頼し、参考として一覧表を委員に配布した。本日結論を出す必要はなく、あくまで自由な意見交換である。頂いた意見や感想は、来年度の地域活動支援事業の募集するテーマを考える際の大事な資料とする。それでは発言願う。

【千代委員】

この募集するテーマは前年度も同様か。津有区で考えたテーマか。

【山崎主事】

今年度の採択方針である8 つのテーマは、前期の津有区地域協議会委員が決定したものである。採択方針は区ごとに設定している。

【千代委員】

毎年決めているのか。

【山崎主事】

毎年検討して設定しているが、津有区ではここ何年かは同じテーマを設定して募集している。

【千代委員】

他の区のテーマを見るとかなり簡略化されている区もある。津有区は8 つのテーマを設定しているが、もう少し集約してまとめられたらよいと思う。

【藤本会長】

現在 8 つのテーマで募集しているが、もう少しテーマを集約してはどうかとのご意見であった。他の委員はどのように考えるか発言願う。

【大滝委員】

この 8 つのテーマの中で、ある程度まとめてもいいような内容があると思う。例えば「子どもを産み育てる環境整備に役立つもの」と「住民の健康・福祉増進、子育て、青少年健全育成に役立つもの」は集約できると思う。ただ、それをすることによって、分かりにくくなる可能性もあるが、もう少し簡略化してまとめられたらと思う。

【藤本会長】

テーマに設定する言葉をもう少し吟味して集約してはどうかのご意見であった。他に何かあるか。

【中島委員】

私はこのままでいいと思う。すべて集約してしまうとあまりにも大まかになってしまう。すべて集約すると「地域を良くするためのもの」ということになってしまうと思う。集約ではなくもう少しテーマを増やしたり、一部のテーマに特化した採択方針にしてもよいと思う。今まで長い間このテーマで募集してきたので、このままでよいと思う。この参考の表を見ると、「住民の健康・福祉増進、子育て、青少年健全育成に役立つもの」が一番多い。ただ、これだけに特化してしまうのはどうなのか。私たちはまだ 1 年生なので、もう少し慣れてからでもよいのではないか。具体的に自分の頭の中でこうだと言えものができて初めてテーマを設定したほうがよいと私は思う。

【藤本会長】

逆に、このままでよいのではないかという意見であった。

私からも発言してよいか。このテーマそのものを考える前に、津有区の地域協議会委員として、津有区の課題は何かを考え、その課題に照らし合わせたときに、このようなテーマを募集したいという流れで考えていくべきである。津有区の課題を明らかにし、それを解決するために、例えばこういう視点があるのではないかという文脈で、作っていくべきであると思う。先ほどご質問があったが、この 8 つの募集するテーマについては前期の委員が決定したものであり、その経緯等は分からない。我々の任期の 4 年間で我々なりの津有区の課題意識を明確に持って、その中で地域に募集するテーマを出せていけたら、地域協議会としての主体性や自主性が出てくると思う。何となく出されたものを審査するのではなく、地域をこんな風にしたいという我々なりの

ビジョンが必要ではないかという私自身の考えがあった。そこで、今年度の提案事業は一体どのテーマに該当して提案されているのかを表にしてほしいと事務局に依頼した。結果としては一覧表のとおりである。一番多く該当しているテーマが、住民の意識として問題視している分野であると考えられる。ただ、実際にそうであるかは別の問題であるように思う。その辺りは今後の各町内会長との意見交換や、学校関係者や若者等のいろいろな方々のご意見を伺う中で、テーマを集約する活動をしていかなければならないと思う。今日ここで、具体的に何かをするわけではないが、今後考えていく必要があると思う。このことについてはぜひ全員の委員からのご意見を頂戴したい。

【古川 勝夫委員】

テーマについてはこれから4年間のうちに、8つでなくとも6つ程度に集約することもよいと思う。会長の発言のとおり、4年間のうちに、津有区のために何が本当に必要で、何をすべきかについて考えたほうがよいと思う。

【古川 仁委員】

先ほど市の行政改革推進課から、少子化や高齢化が進んでいると説明があったが、具体的に津有区においての人口減少のグラフや、高齢者の割合等の資料は過去に作成しているのか。

【本間センター長】

前期の地域協議会委員には、人口の推計や世帯数の推移について資料を提示したことがある。これから自主的審議に入る最初の会議で、皆さんにもまず資料で数字をお示しし、区の現状を知っていただく予定である。今後このような計画があるため、その中で課題を見つけていただければと思っている。

【藤本会長】

まず実態把握をして、その中で津有区の課題を明らかにしていくという作業が今後入ってくるということである。ぜひ、まだ発言のない委員より発言願いたい。

【猪俣委員】

確かに私たちは1年生で、私自身津有区の課題は全くわからない。会長の意見に賛成で、日々勉強していくべき時期であると思う。

【相馬委員】

まだ始めたばかりで分からないことが多いので、これから少しずつ勉強したい。私

は平成町に住んでいるので、南部の事情は分からないことが多い。南部の方から話を聞くなどして、津有地区全体のことを知りたいと思う。

【藤本会長】

津有区の現状について実態把握をすることで、津有区の課題が明確になってくると思う。募集テーマについてはそれを踏まえて議論したいと思っているがよいか。方向性としてご理解いただきたい。

続いて、「審査方法」についてである。審査の進め方については、前回かなりご意見をいただいたが、確認のために再度整理する。今回は、新型コロナウイルスの関係で、例年どおりのヒアリングを行わず、書面での質問・回答を行い、6月に採択を行った。その中で出てきた課題としては、直接提案者と会って話をしないと、質問したいことがうまく聞けず、後から疑問が出てきたということがあった。それから、やはり提案者の生の声を聞きたいという意見もあった。来年度の方向性として、どんな状況であっても、たとえ時間がかかっても、ヒアリングはやるべきというご意見もあると思う。また、逆の意見もあると思う。その辺も含めて発言願う。

【千代委員】

私は前回の協議会でヒアリングについて発言したが、やはりこれは大切なことであると思う。実際に私も皆さんも今年初めて審査したが、津有区の範囲が分からない部分もあるので、資料として最初に示してほしかった。他の地区のことは意外と知らない部分が多いと思う。そのような地域から提案が出されても、実際に物を見ていないし、本当によい提案なのか分からない。例えば、実際に地域協議会委員が、採択の前に提案された現場を見に行くことはできるのか。実際に行ってみると新たに気づくこともあると思う。他の区でこのようなことをやっている区はあるのか。また、他の区でこのような提案が出たことはあるのか。皆さんのご意見を聞きたい。

【藤井係長】

一部の区では、過去に地域活動支援事業を活用している現場を見に行き確認した事例はある。希望があれば、今後調整して見に行くことは可能である。

【千代委員】

採択の前に見に行ったのか。

【藤井係長】

審査の途中ではなく採択後である。また任期の1年目ではなく、2年目や3年目で

あったと記憶している。

【藤本会長】

千代委員の質問は、採択する前に現場を見に行くことが可能かということか。地域協議会として見に行く場合は、協議会を設定する必要があるが、例えば、各自地域協議会委員の委員証を持っていると思う。それを提示して個々で現場を見に行くことは可能だと思う。個々の活動で見に行くことについて聞いているのか。あるいは集団で行くことについてか。

【千代委員】

集団で見に行くことについてである。

【田中副会長】

それでは何のために委員証を持っているのか。そのような時に活用するためである。自分は以前、新道区の地域協議会委員をやっていた。せつかく委員になったのだから、努力が必要である。協議会として集団で見に行くこともできるが、自分でできる範囲は自分で努力するべきである。審査に当たっては実際に現場を見に行かないと分からないことが多い。今回はヒアリングを省略した。我々委員にとって地域活動支援事業の審査が一番難しい。

【千代委員】

一番責任がある。

【田中副会長】

それをきちんと理解してヒアリングを省略したのか。コロナに負けてヒアリングを省略したのは間違いであったと思う。分からないままで採択するのは委員になった意味がない。できれば採点で苦労したことを皆さんから聞きたい。

【藤本会長】

採択の前に集団として見に行くかどうかは今後の課題としたい。ただ、我々は個々で見に行くことも可能であり、場合によっては、採択後にどのように活用されているかを確認することも可能である。例年提案している団体もいくつかあり、そのようなところを実際に見に行くこともよいと思う。その辺りは今後計画的に進めていきたい。

それから、皆さんが審査をするときに困った点や苦労した点を聞きたい。先ほど、もう少し具体的な資料が手元があればよかったという意見があった。分かりにくい部分について、このようにしたらもっと分かりやすいというアドバイス等、ぜひ一言ず

ついただきたい。

【中島委員】

私は全部自分で見てきた。津有地区地域づくり協議会などの町内会長が参加している組織の提案については実施するべきであり、これまでも継続されている事業であるため、全然問題ないと私は思う。

中村公園も見てきた。上雲寺小学校の初代の校長先生の功績を讃えるということで非常によいと思う。むしろ市の答え方に問題があるように思った。地域の人たちがぜひ継承したいということで作ったものであって、学校の施設として子どもたちに残すべきだと思う。非常に素晴らしいと思っている。

稲町内会も見に行ったが、防犯灯を1基のみ設置することの効果や、滑り台を設置して実際に子どもが利用するのかはとても聞けない。だが、提案されているのだから仕方がない。

先ほど課題を絞るという話もあったが、人口や子どもを増やすことは非常に難しい問題である。これに真剣に取り組んで、これに特化した事業しか認めないとしたら何も提案はされない。500万円の配分額を子育て支援のために津有区の各町内に1人1万円ずつ配ることにしてもよいと思う。だがそんなことはできない。何をどのようにして解決するのかについては、本当に考えると市長や市議会議員や県議会議員でなければできない。本当に突き詰めるととても大変であり、これでは4年間も持たない。だから皆さんもよく考えてほしい。これを突き詰めて本当に必要な提案かどうかを考えると、一部の団体にとっては必要であっても、津有区全体にとっては必要とは思えない。津有地区地域づくり協議会が行っているような地区全体に広がる事業については、誰もが賛成していて反対するが不要ない。この議論は余りにも重い内容であり、本当に切ない。

【藤本会長】

地域の実情がよく分かっている立場でご意見をいただいた。

【千代委員】

私はほとんど現場を見に行っていない。初めてで分からないことが多かったため、ヒアリングだけではなく現地を見ることは大切だと思う。委員に選ばれたからには努力が必要である。中島委員の言うとおりに、町内会長としての立場の考えも分かる。会長は、今後市や他区の協議会と話す機会があると思うが、他区では現地を見に行くこ

とをしているのか聞いてほしい。実際に見に行くことで責任を感じることもある。この地域活動支援事業は何年やっているのか。

【藤本会長】

平成 22 年から始まり、約 10 年間である。

【千代委員】

言葉は悪いがだんだんマンネリ化していくように思う。本当にこの事業に予算を使っていいのか考えることが必要である。

【藤本会長】

この地域活動支援事業について、基本的な枠組みを作っていくのは我々であるが、提案書を市が受理して地域協議会が審査するというルールができていたため、それについては従わなければいけない。私は今回採点するに当たって、いくつか実際に現場を見に行った。比較的に見に行きやすいところは、ゲートボール場や上雲寺小学校の中村公園である。私自身は、公益性を一番重視して採点した。より多くの津有区の人たちにとって有益な事業がどれかということも重視して順位を付けた。だからといってその他はよくないという意味ではないが、この事業の目的等を考えると、より多くの人たちにとって利益があるようにするのがよいと思う。採点は委員個人の判断になると思うが、その時に前提となる資料をどれだけ収集できたかが問われると思う。ぜひ、これについては次年度以降の一つの参考にしながら、我々ができることとできないことを分けていく必要があると思う。すべてやろうと思うと難しいが、できる範囲の中で考えていきたい。委員になった以上は地域のことをもっと知りたいと思うし、何かできることはないかという立場で応募しているわけであり、自分としてのポリシーを持たないといけないと思う。そういうことを考えながら進めるということによいか。

それでは意見交換メモに沿って次に進む。次は、「具体的な提案内容の制限」についてである。津有区では提案内容の制限は設けていない。これについて何か意見はあるか。

(発言なし)

次に「審査の制限」についてである。津有区では、委員が事業提案者の場合、当該事業の審査からは除外している。これについて何か意見はあるか。

(発言なし)

続いて「追加募集」についてである。今年度津有区では配分額が 40 万円ほど余った

が、追加募集は実施しないこととした。他の区では追加募集をしている区もあるようである。このことについて、40万円も残すのはもったいないので短い期間であっても追加募集を実施すべきだったという意見もあると思う。それについては、来年度の採択方針等を検討する際の議題として残しておきたいと思うがよいか。

参考に、他の区での追加募集の状況を事務局から説明願う。

【本間センター長】

追加募集をした区より、追加募集をしない区の方が少ない。高田区は約440万円、諏訪区は約110万円、津有区は約42万円、牧区は2万5千円、三和区は7万円が当初募集の採択により残ったが、追加募集を実施していない。それから大島区、大潟区、頸城区、板倉区は当初募集で満額採択された。その他の区は、追加募集を実施している。

【千代委員】

追加募集をするかについては各協議会で決めることになっていて、津有区では追加募集はしないことを前回決定したということか。

【本間センター長】

そのとおり。

【藤本会長】

津有区については今年度の採択方針として追加募集は実施しないこととしていたが、配分残額が40万円ほどあるため、前回の協議会で追加募集について確認した。他の区では追加募集を行った区もあるということである。

【千代委員】

追加募集で提案された事業は地域協議会が審査するのか。あるいは審査にかけずに市で認めるとしているのか。

【藤本会長】

追加募集をする場合には、当然当初募集と同じプロセスを経て採択される。税金であるため、審査をせずに通すことはあり得ない。追加募集については来年度の方針を決定する際に再度議論したい。

最後に「その他」であるが、地域活動支援事業全体に関わって何かあるか。

(発言なし)

それでは次第2議題「(2)協議事項」の「①地域活動支援事業の課題等の洗い出し」

を終了する。本日の意見交換の内容は、来年度の募集や審査方法等に反映したい。

次に次第3 議題「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。次回の協議会では津有区の概要等を知り、今後の自主的審議事項の進め方等について協議を行いたいと思っている。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：8月24日（月）午後6時30分から 津有地区公民館 大会議室
- ・内容：自主的審議事項について（津有区の概要等）

他に何かあるか。

【田中副会長】

会の進め方についてである。会長が冒頭で話したように、議事のスムーズな進行を心掛けて発言してほしい。私もできるだけ心掛けている。中にはこのような会が初めてという方もいるが、話がテーマから外れて広がっていき、まとまりのない発言が見受けられたので、もう少し簡略に話していただきたいと思う。

もう1点、自主的審議についてである。1人で考えて地域の課題を見つけて解決することは不可能である。これは非常に時間がかかる問題である。課題を見つけるには、子どものことについては子供会等に聞く。学校のことについては校長に聞く。町内のことについては町内会長の集まりで聞く。我々だけで汗水垂らして課題を探すことは不可能に近い。そんなに時間もない。だから、よく聞く、よく見る、よく勉強する。そして我々で話し合いながらまとめていく。大げさに考えるととんでもなく大きなテーマになる。必要だから議題が起きるのである。考え出して生まれるものではない。小さな町や村でも自分たちが必要だから何かを作ろうというわけである。市がこう言ったからというように受け身に考えることはよくない。考え方の根本を捉えて考えた方が、もっと気楽に進められると私は思う。

【藤本会長】

我々が委員である以上は、ある程度課題意識を持っていくことは大切だと思う。ぜひ建設的な発言をいただきながら、地域のためにできることを考えていきたいと思うので、ご協力いただきたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。